

毎月11日掲載

# 防災・減災のページ



## ■むすび塾に参加して

東日本大震災の教訓を今後の備えに生かすため、河北新報社は1月14日、巡回ワークショップ「むすび塾」を石巻・八幡町で開いた。東北以外の開催地も巡回引回し、被災・復興支援機構(東京)の木村拓理理事長の進行で、住居を失った高齢者や障害者に要援者の避難支援対策を話し合った。

## 要援者の避難支援対策

八幡町内会には被災前から防災ネットワークがあり、避難時に長が到着すると避難一時避難所が決まっていた。住民からは避難生活も取り決まらぬで泊り行動(近所のおいし)を提案し、一帯に避難所を走らせた。避難支援を呼びかけたが、応じないもいたと撤退した。元保健推進員の石田幸子さんは「被災直後、周囲のお年寄りには避難先を呼びかけた。震災後は地域の口が閉じられ、防災ネットワークが機能する状態は、主幹の松川とよ子さん(76)は「いきなりこの場に頼れる人が近所にいない。昔長と交流がないので、災害が起きたら何をどうするか」と悩んでいた。町内会防災部長の織原隆仁(65)は「ネットワークの構築も課題だ。普段から近所付き合いを深める必要があり、むすび塾に参加する意義が大きい。お茶会のようにコミ

## 巡回ワークショップ @石巻・八幡町

### むすび塾

# 減災議論の場をもっと



石巻市八幡町で東日本大震災の発生時、要援者の避難に防災ネットワークを活用する近隣住民が力を発揮する。

## 復興途上の地域の備え

復興に伴う街並みの変化に合わせて避難路を確認する

避難場所の確保 要援者のサポートなどは近隣町内会と連携する

防災倉庫に住民の備蓄品を収め、内容の充実と定期的な更新を促す

イラスト 東海林伸吾

石巻・八幡町

## 近隣住民が力を発揮

防災ネットワークは、2人はが不自由におおむね20名を町内会に民生委員、人が、近隣の消防署と連携して、被災時、17人の要援者、加勢つた。一方、地域では、要援者のために、登録者があつた。地域では、要援者のために、登録者があつた。地域では、要援者のために、登録者があつた。

## 地震想定し事前対策を

避難の約束は地震発生後、例え被災した際の避難先、事前に決めておく。地震発生後、例え被災した際の避難先、事前に決めておく。地震発生後、例え被災した際の避難先、事前に決めておく。



減災 復興支援機構理事 木村 拓郎さん



## 共助へ意識共有が必要

要援者の避難のために地域で住居の情報共有は、重要だ。防災ネットワークを築き、地域で住居の情報共有は、重要だ。防災ネットワークを築き、地域で住居の情報共有は、重要だ。

宮下 加奈さん

## 地域の状況見直す時期

震災から5年がたつた、町の姿が変わった。地域の状況を見直す時期だ。震災から5年がたつた、町の姿が変わった。地域の状況を見直す時期だ。

福留 邦洋さん

東北大工大准教授 福留 邦洋さん